



NPO法人 みどりのゆび

会報 2024年 春号



フットパスによる未来づくりは 里山・まち歩きを楽しむことから

ご挨拶 事務局・浅黄 美彦

まちや建物の魅力を 楽しく歩きながら伝えていきたい

今回の会報から事務局メンバーが順に巻頭言を書くことになりました。よろしくお願いします。

とはいえ当会に入会して4年目ゆえ、フットパスに関して深い知見があるわけでもありませんので、自己紹介を兼ねたご挨拶を書かせていただきます。

「みどりのゆび」に入ったきっかけは、高見澤理事長から事務局が大変なのでできることを少しでも手伝ってくれないかというお誘いを受け、2020年に正会員となりました。すでに定年退職していましたが、「NPO玉川学園地区まちづくりの会」の事務局長を受けたばかりでしたので、できることだけということで、事務手続きの手伝いとフットパス講座の案内をやらせていただいております。

長くまち歩きをしていましたので、フットパス専門家講座の講師は“楽勝”かと安請け合いしてしまいました。ですが、地図に頼らない一人歩きや多摩武蔵野・神奈川の地形の過酷さを喜ぶスリバチ散歩に慣れた身には、フットパスコース設定のあり方がわからず当初は戸惑っていました。

そんな折、他の講師の方のフットパスにいくつか参加させていただき、わかったことは、王道のフットパス、歴史古街道、花や木、まちづくりなど、多彩で思い入りの深いテーマを、自らが楽しみながら案内する姿勢が参加者の共感をよんでいるということでした。それに倣い今では、私の好きな建築を中心としたまち歩きを気楽に案内させていただいております。

最後に事務局として一言。会員も事務局メンバーも高齢化しております。にもかかわらず「みどりのゆび」の活動は、里山の保全、フットパスイベントの開催、マップの販売・修正・印刷、会報の作成など、多くの活動を少人数の事務局で運営しており、活動を支えることがだんだんとしんどくなっています。そんな折、昨年新たに入会された伊藤右学さんが事務局に加わり、かなりの負担の軽減となりました。さらにもう何人か、まずは事務局会議に参加いただき、何かできることを見つけていただければ、事務に振り回されることなく、本来の「みどりのゆび」のなすべきことへ力を注ぐことができるように思います。



他のまちのフットパスをみてみよう

麻布十番はどんなまち？

[講師：みどりのゆび 神谷 由紀子]

謎の多い麻布十番から白金台地を 深掘りすると

7月9日(日) 天気：曇 参加者：12名

前は麻布十番から六本木など、港区の北側の麻布台地を巡りました。今回は麻布十番から四ノ橋経由で南側の白金台地を歩きました。白金というとセレブの邸宅のあるリッチな地域というイメージがありましたが、行ってみるとむしろ町人を中心とした下町が主体となった、落ち着いたまちでした。もともと麻布地域は南斜面の丘陵地で、白金は主に共有地でした。四代家綱、五代綱吉の時代に江戸城から半径3~4kmにある、麻布、白金の郊外に大名の下屋敷などが置かれ商人町もできました。景観や古川という水運にも恵まれ、昔から自然も人間の生活も豊かだったのでしょう。それが現在も高級な地域のイメージの割にはどことなく丁寧で暖かな人情があって、好感をもたれる理由ではないかと思えます。

今回のコースは仙台坂上から四ノ橋に南下します。かなり面白いのでお勧めです(暑くなければ)。麻布十番駅→商店街→暗闇坂→阿部 美樹志邸→氷川神社→安藤教会→一本松→仙台坂上→薬園坂→釣堀坂→本村町貝塚→四ノ橋→白金商店街→三光坂→服部ハウス(服部金太郎邸)→聖心女子学園→雷神神社→白金北里商店街(昼食)→明治坂→医科研→港区郷土歴史館→悪水溜→国立科学博物館附属自然教育園→都立庭園美術館→白金台又はJR目黒駅

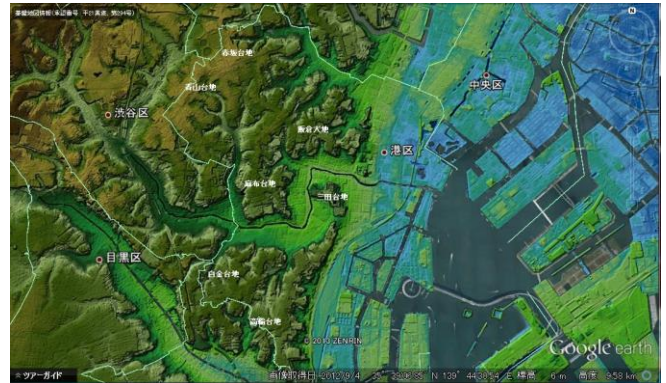
■麻布の発展は綱吉の「白金御殿」に始まった「四乃橋」の北側、ちょうどいまのイラン大使館のあたりに江戸幕府の薬草園がありました。綱吉は眺めのよいここが気に入り、「白金御殿」を建築しました。これによって麻布の商店街や古川周辺の開発が進んだのです。薬草園は小石川に移転しました。

■太古は海岸だった(地形図参照)：「釣堀坂」、「本村町貝塚」

釣堀坂を下った辺りが入り江で、そこから貝塚のある「本村町住宅2号館」の裏の崖が太古には海岸線であり、この海岸線を降りる坂が「薬園坂」で、浜辺の古川に接するところが「四ノ橋」なのです。

後ろの高台には綱吉の白金御殿、目の前には白金の草原が広がっていました。「四之橋」は江戸時代にピクニックの名所で、浮世絵にも描かれて

います。日本橋からの距離は約7km、徒歩だと約90分。橋の南には茶店や料亭が広がりました。これが今の白金商店街の始まりです。



麻布十番白金地形図



歌川広重『名所江戸百景 広尾ふる川』(四ノ橋)
1856年(安政3年)

■大名屋敷から芸術的建築物へ：「聖心女子学園」、「東大医科学研究所」

丘陵地であるので山手には大名の下屋敷が多くありましたが、明治以後学校などになりました。聖心女子学園が明治41年に建設されました。正門は建築家ヤン・レツルの設計で、初等科の美しい校舎はアントニン・レイモンドです。



聖心女子学園正門前でみなさまと(写真：田邊)

「東大医科学研究所」は、明治25年に北里柴三郎が設立した「伝染病研究所」が明治39年に現在の場所に移転され、その後東京帝国大学付属になりました。安田講堂と同じ内田祥三の設計で造られたゴシック風の重厚な建物で、隣接する「旧国立公衆衛生院（現在は港区立郷土歴史館）」と共に保全されています。



「東大医科学研究所」正門と「旧国立公衆衛生院」（写真:田邊）

■水源池の跡：「聖心女子学園」・「東大医科研」・「悪水溜」

「東大医科学研究所」の木々の生い茂る窪地にかつて川の水源の池があり、ここから聖心女子学園を通して支流が古川に流れ込んでいました。医科研の西側には医科研によってせき止められた窪みができ、明治時代「悪水溜」と称され付近の下水を地下に浸透させていたそう。今回のウォークで、皆で煉瓦の擁壁がかなり長い範囲で残っているのを見つけたのは大収穫でした！



「白金台の悪水溜」の赤煉瓦の擁壁（写真:田邊）

■白金という地名

現在の「自然教育園」と「東京都庭園美術館」の広大な敷地には、室町時代に「白金長者」の館があったといわれ、その土塁跡が今も残っています。江戸時代には大名下屋敷に、明治時代には陸海軍の火薬庫に、そして大正時代には皇室の御料地となりました。



安藤教会（写真:横山）

（文と資料：神谷 由紀子）

「白金台の悪水溜」と現代のイメージの落差を楽しむ

麻布十番から白金へと今日のコースの概要を聞いたとき、地域の歴史や由緒もきっと華やかなフットパスになると思った。ま、ちょっと古いが「シロガネーゼ」という流行り言葉があったように、グルメやファッションそしてカフェや洋菓子を求めて、あの寅さん風にいえば「粋な姉ちゃんがチャラチャラ歩いてる」そんな街がイメージされた。

「薬園坂」を古川傍に下りるとその南側一帯は、印刷所や町工場が多いところだとの説明を受けた。後日港区のHPを覗いてみたら「白金、誇りの町工場」と自衛隊用の特殊なラップを造っている工場の写真が載っていたので、このあたりは昔ながらの白金の記憶を残す下町感あふれる場所なんだと、そのイメージの落差が楽しめた。

目黒通りから北西に入ると結構な坂が下っていて、向こう側の高台を目にすることができる。底は悪水溜。スリバチ学会の皆川さんは言う、「この先に谷があるから、下りてまた上る坂になっている。V字型の谷ではなくて、スプーンで掬ったようなスリバチ状の谷が東京にはたくさんあるのです」。ここ悪水溜は白金台にある、四方向とも閉じられた一級のスリバチ地形とのこと。「東京23区凸凹地図」には、「旧悪水溜」溜池の名残として煉瓦造の擁壁が残されている。貴重な一級スリバチ地形、と記されている。

「白金台の悪水溜」とつぶやいてみると、それは京極夏彦の妖怪話か、周五郎や周平の哀感あふれる時代世話物か、正太郎の梅安か犯科帳か、何か白金のイメージとは全く違う物語が紡ぎ出されるような思いにとらわれる。（文：岩崎 英邦）



「東京都庭園美術館」にて、お疲れさまでした！（写真：田邊）

他のまちのフットパスをみてみよう
涼風をもとめて御嶽溪谷を歩く
[講師：小林 道正]

溪谷の地形と河原の石、
名水の秘密を探る

7月22日(土) 天気：晴 参加者：11名

JR青梅線「沢井」駅→多摩川の川原<石拾い>
→清流ガーデン「澤乃井園」<石の標本づくり・
昼食>→「小澤酒造」<酒蔵・仕込み水見学>→
「御嶽溪谷」<散策>→「玉堂美術館」・砂金探
し→JR青梅線「御嶽」駅

小澤酒造は「澤乃井には2種類の名水があるこ
とで美酒を造ることができます」と説明していま
す。「2種類の名水」とは何でしょうか。それは
奥多摩の地質が大きく関わっています。「秩父
中古生層」という古生代から中生代に形成された
地層のことです。この地層の岩石を多摩川の川原
で拾い集め「石の標本」を作ります。

そして多摩川では「砂金採り」がブームになっ
ています。上流に武田信玄の隠し金山といわれて
いる「黒川金山」があり、長い年月をかけて流れ
下って来たらしいです。



湧き水の説明図



砂金採りの例

1. 川原で石拾い

涼風を求めて多摩川の川原に下りてみると凄ま
じい暑さでした。日陰がないのと河原の石の照り
返しで予想以上です。ゴムボートでラフティング
を楽しんでいる若者達が羨ましかったです。



御嶽溪谷の急流を下るラフティングゴムボート

ここでは御嶽溪谷の地形と河原の石について説
明し、石の標本箱を作っていただく予定でしたが、
真夏の炎天下では熱中症が心配なので、小石を拾
ってもらっただけにしました。

小石は、標本箱に入る大きさに注意して、色や模
様の違うものを少し多めに拾うようにしました。
石の色は水に濡らすと鮮やかになります。白、黒、
灰色、青、緑色、赤などいろいろあることに気付
いていただけました。色の違いによって丸いもの
やゴツゴツして角張っていることに気付いた方も
いましたが、木陰へ移動することにしました。

2. 清流ガーデン「澤ノ井園」で石の標本づくり

清流ガーデン澤ノ井園はお昼時前で空いていま
した。東屋のテーブル席に座ると涼しい風が吹い
てホッとしました。ここで「小石の標本」を作っ
てもらうことにしました。

ここで拾える石は、泥岩、砂岩、礫岩、チャー
ト、石灰岩、凝灰岩などの堆積岩です。これらの
小石を用意した箱の中に並べて、接着剤で貼り付
けます。次にニス塗ってツヤを出すと色が鮮やか
になります。最後にラベルを貼って完成です。

理科の勉強みたいですが、たいへん楽しそうに
取り組んでいました。お店では買うことのできな
い大切なお土産になったと好評でした。



涼しい東屋で石の標本作り (写真：横山)



小石の標本

3. 「小澤酒造」の見学

2種類の名水を見学しました。一つは「蔵の井戸」と云われている蔵の裏山を140mも掘り進んだ横井戸から湧き出ているミネラル分の多い「中硬水」です。もう一つは「山の井戸」と云われている多摩川の対岸の山奥から導いている「軟水」です。



蔵の井戸

山の井戸の水

4. 「御岳溪谷」を歩く

御嶽溪谷は、誰でも安全に散歩ができる遊歩道が整備されています。木陰のおかげで涼しく歩くことができました。

遊歩道を外れて川原に下りてみると、褶曲した地層のチャートが観察できます。大小のポットホールがあり、その成因について話し合うことで長い長い時間の流れを感じてもらいました。



チャートの巨岩の上で観察

5. 美術館鑑賞と砂金探し

日本画の巨匠・川合玉堂を鑑賞する人と、川原に下りて砂金探しをする人に別れて活動しました。ゴールのJR「御嶽」駅までは歩いて10分程度です。



パン皿を使って砂金採り

(文と写真：小林 道正)

銘酒「澤乃井」を醸す水ありて

記録的な猛暑の中、涼を求めて奥多摩の溪谷を歩きました。実際街中に比べて3℃以上低い感じ。フットパスはほぼ緑の木陰になっており、谷を渡る風も爽やかで、暑さは気になりませんでした。今回のテーマは奥多摩の地質です。川岸には巨岩が露出し河原も石がゴロゴロしており、大地の成り立ちを考えるのにはよいところだと思います。

JR奥多摩線「沢井」駅前に集合。小林先生の先導の下、先ず多摩川の河原へ。そこで河原の石の種類と地質学的な起源について解説がありました。砂岩、泥岩、石灰岩、チャートなど一億年以上前の中生代から古生代ものとのこと。各種の石ころを探して小さな標本箱を作りました。

昼食後は奥多摩の蔵元・「小澤酒造」を見学しました。内部は思った以上に広く、奥行きがあり、案内の方の解説も興味深いものでした。印象的だったのは岩盤をくりぬいた中の醸造用の水の井戸です。奥多摩の地層を抜けたミネラルに富んだ地下水で、銘酒「澤乃井」が醸（かも）されるわけです。

その後川沿いに歩いて廻りました。夏は草木が葉を繁らせる時期で花は少ないのですが、道沿いにオレンジ色のノカンゾウの花が点々と咲いていました。道は川の流れから10mぐらいの高さです。



そこに生えているということは、増水の時そこで種が流されて来るのでしょうか。河原に転がる巨岩とともに自然の猛威を感じました。

最後は「玉堂美術館」の前で砂金採りです。今回はダメでしたが粘れば採れたかもしれません。盛りだくさんの楽しい一日でした。

(文と写真：森 正隆)



今日ご参加のみなさまと (写真：小林)

フットパス専門家講座
「牧野記念庭園」と「石神井公園」を
訪ねて

[講師：日本植物友の会副会長 山田 隆彦]

牧野富太郎が
晩年を過ごした跡を訪ねた

9月10日(日) 天気：晴 参加者：14名

昨年はNHKの朝ドラ「らんまん」のモデルとなった牧野富太郎がちょっとしたブームを巻き起こした。

このこともあり、9月10日に牧野富太郎が晩年を過ごした「練馬区立牧野記念庭園」と、近くにある「都立石神井公園」を訪ねた。その日は日曜日であったので、入場制限がされ並ぶのではないかと心配したが、簡単に入場できた。

牧野富太郎がこの地に居を移したのは、1926(大正15/昭和元)年、64歳の時である。当時は、東京府北豊島郡大泉村(現在の東京都練馬区東大泉)の地名であった。妻の寿衛(すえ)子が、場所を選定し建てたと言われている。ここで牧野富太郎は94歳の生涯を終えた。その間、新種として命名した植物は1500種以上にもなる。

紙面の関係で、牧野記念庭園に植えられている主な植物3種について紹介しようと思う。

スエコザサ (イネ科)

牧野記念庭園の中で一際目立つのは、富太郎銅像のある囲いの中に植えられているスエコザサである。転居して2年後に逝去した妻の寿衛子に献名したもので、寿衛子の亡くなる前の年に富太郎が仙台市で発見したササである。



スエコザサに囲まれた富太郎銅像

学名(世界共通の名前)は *Sasaella ramosa* (Makino) Makino var. *suwekoana* (Makino) Sad.Suzukiで変種名の種形容語に寿衛子の名前が付けられている。ちなみに *ramosa* は「枝分かれした」という意味である。

本州の宮城県以北に見られるササで、アズマザサ(東笹)の変種とされている。この辺ではどこにでも生えているアズマネザサもアズマザサとともに、牧野富太郎が命名している。

スエコザサの特徴は、葉の片面の縁が裏に巻き、縦方向に皺があること、葉の表面には白くて長い毛がところどころにあり、裏には毛が生えている。また、茎を包んでいる皮(鞘)には毛がないことも特徴である。

寿衛子の墓石は、谷中天王寺にあり、そこには、富太郎が詠んだ二つの句、「家守りし妻の恵みや我が学び」、「世の中のあらん限りやすゑ子笹」が刻まれているという。



牧野記念庭園内、スエコザサに囲まれた二句が刻まれた石碑
(写真：田邊)

ヘラノキ (アオイ科)

入り口から少し中に入ったところに大きな木がある。練馬の銘木になっているヘラノキで、これも牧野博士が命名している。樹皮が縦に細かく割れているのですぐにわかる。

名前は花のついている花序に「苞」というへら状の形をしているものがあり、この姿から名がついた。苞は蕾を包み、保護していた器官である。ヘラノキの果実は径4mmほどの球形をしていて、熟すと苞がついたまま落ちる。そのとき、ヘラの形をした苞が、翼のかわりとなり、回転しながら風で遠くまで運ばれ散布される。



ヘラノキの樹皮



ヘラノキの花
(6月、小石川植物園)

ヒメアジサイ（アジサイ科）

花は他のアジサイと同じで梅雨期に咲き、牧野富太郎が戸隠の民家で見つけ、名前をつけたもの。花が優美で葉に光沢のあるアジサイとは違うと気づきヒメアジサイの名で新種として発表した、と案内板には書かれている。現在は、エゾアジサイの系統とされ、発見当時と違う学名が使われている。私は、まだ花を見たことがなく、6月には是非訪ねたいと思う。この植物は「らんまん」でも紹介された。



ヒメアジサイ

牧野記念庭園を散策後、石神井公園へ向かった。ここではマコモやゴキヅルなどを観察し、帰路についた。（文と写真：山田 隆彦）



ご参加のみなさまと（都立石神井公園）（写真：田邊）



スエコザサ(写真：田中)

牧野富太郎の情熱をスエコザサに見る

西武池袋線「大泉学園」駅から歩き始めて、右手に大きなダイオウショウが目につきました。そこが「練馬区立牧野記念庭園」でした。牧野富太郎が人生の後半30年ほどを過ごしたところです。標本数40万点、書籍数万冊はとんでもない数で、学校の教室がいくつも必要なほどの量です。残された書斎と書庫は一部とはいえ信じられないほどの狭さでした。万卷の書を全て読むことは不可能です。読むべきポイントを正確に見抜き、理解し、記憶し、活用できる人が稀にいて、牧野はそういう一人だったのでしょうか。

庭に牧野の胸像を囲むようにスエコザサが茂っています。病に伏す愛妻壽衛（すえ）に感謝を込めて命名したことはよく知られています。残念ながら壽衛は発表論文を見ることはできませんでした。また、最初は独立種とされていましたが、今はアズマザサの変種とされています。改めてじっくり観察することが出来たのは、今回参加した一番の目的でした。

若い頃わざわざ上京して購入したという顕微鏡も展示されています。倍率の変換も出来ず単純な構造です。それでも家を買えるほどの値段だったそうです。それを駆使して正確な花の細かい解剖図を書き込んだ牧野式植物図は、その後の植物学の発展に貢献しました。

庭園を出て、暑い住宅街を歩いて「都立石神井公園」に向かいました。「三宝寺池」ではミソハギやヒオウギが目を惹きました。ヒオウギは町田では見られません。種子が黒く、かつて習った夜の枕詞「ぬばたま」という名もあることを教わりました。初めて見たシロネ、付属の植物園ではカリガネソウや関東にはないスズムシバナなどを見ることができました。「石神井池」では改めてマコモを確認し、水辺に普通というゴキヅルも初めて見ました。

季節を変えてまた訪れてみたいコースでした。「石神井公園」駅に向かう緩い坂道はもう足がくがく、杖を取り出してしまいました。でも、駅前のビールはおいしかった。

（文と写真：田中 良也）



ヒオウギ（アヤメ科）（写真：田中）

他のまちのフットパスをみてみよう
隅田川の13の橋を見ながら歩くと？
〔講師：桐澤 宏〕

隅田川は「岩淵水門」で荒川から南に分岐し、東京湾までの23.5kmを流れる一級河川です。今回は、浅草から河口までの約9kmの川辺を、13の橋を見ながら歩きました。

10月1日（日）天気：晴 参加者：12名

「浅草文化観光センター」前10時集合。

10月とはとても思えないような厳しい陽射しの中を「すみだリバーウオーク」を渡って左岸へ。低めの橋からの川面の眺めは新鮮です。

「隅田公園（震災後三大復興公園の一つ）」を覗き、又、川沿いを行います。

- ① 吾妻橋：創架は江戸時代。「竹町の渡し」があった。現在の橋は1931（昭和6）年竣工。
『アサヒビル本社ビル』や「墨田区役所庁舎」が際立っています。
- ② 駒形橋：1927（昭和2）年竣工。それ以前は「駒形の渡し」があった。
- ③ 厩橋：1929（昭和4）年竣工。
- ④ 蔵前橋：1927（昭和2）年竣工。それ以前は「富士見の渡し」があった。



隅田川の川岸を歩き13の橋を巡る（厩橋）

「蔵前橋」手前で川から離れ、「横網町公園」の中の「東京都慰霊堂」と「復興記念館」とを見学し平和を祈念。両館とも、関東大震災による遭難死者の遺骨を納めるために1930（昭和5）年に建てられ、その後、東京大空襲などによる殉難者の遺骨も安置しています。

横網町公園から、「国技館」、「江戸東京博物館」の脇を通り、両国駅に向かいました。JR両国駅前の「両国江戸NOREN」で、それぞれ好みの昼食を楽しみました。



「横網町公園」の「東京都慰霊堂」と「復興記念館」を見学



「両国江戸NOREN」、それぞれ好みの昼食を楽しむ

昼食後、再び、隅田川沿いの川辺に戻ります。

- ⑤ 両国橋：創架は江戸時代。橋の名は西側が武蔵国、東側が下総国と二つの国に跨っていたから。現在の橋は1932（昭和7）年竣工。

- ⑥ 新大橋：創架は江戸時代1693（元禄6）年。現在の橋は1977（昭和52）年竣工。
「新大橋」先で、「芭蕉稲荷神社（深川芭蕉庵跡）」にお参り。松尾芭蕉は、1680（延宝8）年から1694（元禄7）年に大阪で病没するまで、当地に住んでいました。



芭蕉稲荷神社
（深川芭蕉庵跡）

- ⑦ 清洲橋：重要文化財 竣工1928（昭和3）年。ケルンの吊橋をモデルとした名橋。
「中州の渡し」という渡船場があった場所。右岸に目を引く大きなビルがあります。「Daiwaリーバーク」は 門構えの特徴的な賃貸オフィス、住宅ビル。竣工1994（平成6）年。

⑧ 隅田川大橋：1979（昭和54）年竣工。

「永代橋」で右岸に渡ります。

⑨ 永代橋：重要文化財 創架は江戸時代。

赤穂浪士の吉良上野介屋敷への討ち入り後に上野介の首を掲げて「永代橋」を渡し、泉岳寺に向かったという。現在の橋は、竣工1926（大正15）年。

「中央大橋」で佃へ渡ります。

⑩ 中央大橋：1993（平成5）年竣工。

⑪ 佃大橋：1964（昭和39）年竣工。

320年余続いていた「佃の渡し」のあった場所。中心線が川に対して60度程斜めになっている。

「勝鬨橋」が見えてきました。小学校の都内見学で初めて見て、橋が開閉することに皆で興奮したことを思い出します。

⑫ 勝鬨橋：重要文化財 1940（昭和15）年竣工。

完成当初は、1日に5回跳開していた。1967（昭和42）年通航終了。



勝鬨橋

⑬ 築地大橋：2018（平成30）年竣工。

2021（令和3）年度のオリンピックに合わせて整備された。

「勝鬨橋」近くで解散。

冷たい飲み物が美味しい！

なお、橋、建造物などの説明には、浅黄 美彦様からの資料を使わせていただきました。当日もご案内いただき、感謝申し上げます。



集合写真、清洲橋をバックに

（文：桐澤 宏 写真：田邊 博仁）

歴史や背景に想いを馳せながら、 橋巡りを堪能

初めて、浅草界隈を訪ねたのが60年前。以来、100回は下らないまでも、〈橋巡り〉に特化したのは今回が初めて。

当日、歩くには程良い晴天。先ず向かうは東武スカイツリーラインの鉄橋。その鉄橋に沿って新しく架かった歩行者専用の橋、「すみだリバーウォーク」を歩きました。水面に近い橋から見る下流方角の景色には、“泡吹く”「アサヒビール本社ビル」、「東京スカイツリー」など、浅草の街並みが見えて、甚く新鮮でした。



「すみだリバーウォーク」からの眺め

更に左岸の「隅田川テラス」に渡り、いざ橋巡りのスタートです。（因みに… 川の流れの方向（上流から下流）を見て右側が右岸、左側が左岸です。外国でも同じ…との事。）「吾妻橋」を皮切りに「駒形橋」、「蔵前橋」…と、橋にまつわる丁寧な講師の解説に、首肯しながら拝聴。ここで一旦河岸から離れ、今年が関東大震災から100年にあたる、惨状の地となった「被覆廠跡（現・都立横網町公園）」を訪ね、慰霊堂で合掌しました。

昼食を両国駅前ビルで摂り、午後の部は「新大橋」からリスタート。共に重要文化財の「清洲橋」と「永代橋」を愛でつつ、河口を目指しました。

佃島ではお気に入りの店舗で、定番の佃煮（私はアサリと稲子）を購入。

今回のFPは、只ただ橋の外観を眺めるだけでなく、其々の橋にまつわる歴史や背景も伺いました。更に途中で、「新大橋」近くの「江東区芭蕉記念館」にも立ち寄ったり、按配よく変化に富んだウォーキングとなりました。（文と写真：蔵 紀雄）



清洲橋

他のまちのフットパスをみてみよう
フットパスによる活性化に熱心な
福島県西郷村

【講師：みどりのゆび+日本フットパス協会】

「全国フットパスの集い2023in西郷村」
に参加しました

10月28日(土) 29日(日) 天気：晴 参加者：7名

コロナが収束して2回目の全国大会で、各地から約350人（「福島民報」調べ）が集結しやっと本来の集いが戻ってきました。

みどりのゆびからの参加者はフットパス協会を手伝い、新刊『フットパスによる未来づくり』20冊を売り上げ、活躍しました。

今回のフォーラムでは福島を中心としたフットパスのケーススタディ--①西郷村（北浦鑑久氏）、②宮城県柴田町（平間忠一氏）、③喜多方市高郷町（物江浩二氏）--が印象的でした。西郷村の北浦さんは東北各地に出向いて、歩く団体と交流を深めています。宮城県柴田町は活動を始めて9年ということで、何度か一緒に歩いたガイドさんたちの顔が浮かびました。高郷町の本村は14世帯40数人という寒村ですが、フットパスによる活性化が熱心に行なわれています。また福島県観光物産交流協会の守岡文浩理事長からは、被災地12自治体でのフットパスによる観光復興が図られているとの報告がありました。フットパス協会設立から14年。東北にも確実にフットパスが浸透してきているのを感じました。



フォーラムの様子

29日のフットパスウォークは、西郷村の開拓史を実感するコースと西郷瀨など美景を巡る5コースでした。北浦さんによると、西郷村の開拓は大きくは明治以降の馬産に基づくものと戦後の加藤寛治氏による農地開拓に二分されます。西郷村は古代から火山灰土、水路不足、那須おろしと農地に適さずあまり人の住まない土地でした。しかしこの地域は昔から名馬を産していたこともあり、明治時代には陸軍の馬事補充部、農商務省の種馬所となり、これがこの地域の経済を産みしました。

今も家畜改良センターの本所（日本全体の本部）が西郷村に置かれ、この中心的役割と経済効果によって地方交付税の不交付団体になるほど豊かになっています。また戦後の農地開拓は苦勞を極めました、じゃがいもや養魚が特産物になりました。最近では新幹線が停まる唯一の村として、交通の利便性から企業誘致も行われ人口も増加して、小さいのになかなかやり手の自治体です。

観光面でも期待されています。甲子トンネルの開通、東北縦貫道の白河ICの開設によって便利になり観光資源が広がりました。白河ICから会津若松に行くルートは、西郷村の「西郷瀨」や牧歌的な美観を甲子トンネルによって日本情緒溢れる会津地域に導く推薦コースです。私たちも大会後、塔の形の奇岩が立ち並ぶ断崖で知られる会津の「塔のへつり」までドライブしましたが、甲子トンネルを越えた途端に周囲を紅葉に囲まれて皆で歓声を上げました。

フットパスに対しても高橋村長自ら視察に参加されたり、村の人々が最高の受入体制で迎えてくださったりと熱心です。フットパスが地域の活性化の一助になることを祈っています。



開拓時の家（ガイドさんの1人がここに住んでいた）



開拓村のおもてなし（サルナシの実）



西郷瀬



村人のおもてなし
(文と写真：神谷 由紀子)



塔のへつり（写真：伊藤）

「2・4・5村（ニ・シ・ゴー村）」 は熱かった！

最初は何回読んでも「さいごうむら」。福島
の西郷村（にしごうむら）が今回のフットパスの集
いの舞台でした。西郷村は福島県の南部にあり、
東は白河市、南は那須高原に接して標高 400～
600mの高地に位置しています。東京から新幹線
で新白河まで1時間20分。新幹線が停車する唯一
の“村”だそうです。東北自動車道の白河ICも近く、
アクセスは良い「ほどよい田舎」という記載があり
ました。

全国大会は、盛大なもので、活動事例を発表す
るフォーラムがありました。皆さんに共通してい
たのが、行政を巻き込んだ、地元を愛する熱い気
持ちです。フットパスを通じて人とのつながりと
経済効果、地域創生のあり方を考えています。活
動報告を聞いていてワクワクする気持ちになりま
した。その後の交流会でもいろいろな方と交流し
ました。交流会では、抽選会のお楽しみイベント
があり、そこでみどりのゆびのメンバーは大活躍。
1等の地元の老舗旅館の宿泊券、2等の高級な阿武
隈メイプルサーモンを連続ゲットしました。活動
発表はありませんでしたが、最後に活躍してきま
した。

大会は無事に終わりましたが、行動的なみどりの
ゆびのメンバーはその後、レンタカーで往復8
0 km、2時間かけて南会津の名所「塔のへつり」
に遠征してきました。長い年月をかけて自然が作
り出したこの渓谷は、塔の形が立ち並ぶ断崖とい
う意味から「塔のへつり」と名づけられたよう
です。「中国の断崖みたいだね」「どうしてもここ
に来たかった」など楽しい会話が続きしました。

初めての全国大会への参加でしたが、日常を忘
れる内容の濃い2日間となりました。来年は、熊
本県美里町（3・3・10）だそうです。是非ご
一緒に！
(文と写真：伊藤 右学)



塔のへつりで記念写真（写真：伊藤）

フットパス専門家講座
 玉川学園から鶴川
 定番コースを深堀りします
 [講師：高見澤 邦郎（午前）
 浅黄 美彦（午後）]

坂道と階段、緑をまとった尾根道に
 文化が香るまちづくりを見る

11月10日(金) 天気：曇時々小雨 参加者：22名

『まちだフットパスガイドマップ「コース3：鶴川から玉川学園」』をベースとしたフットパス。昭和初期に創立した学校法人「玉川学園」とスプロール住宅地にできた「和光大学」、ともにルートは同じ「成城学園」なれど、まったく違う学風と風景で多摩丘陵の尾根道で繋がる二つの対象的なまちを新たな知見を踏まえて深堀りして歩きました。

玉川学園前駅に集合。デッキを渡りコミュニティセンター前で、コースのアウトラインを説明し、坂のまち玉川学園を歩き始めました。コミュニティセンター脇の「ふれあい坂」にあるベンチは、作家の片岡義男さんが散歩の途中に休憩していることや、北口商店街の「玉川珈琲倶楽部」では、昨年亡くなられた森村誠一さんの定席があったことなど、作家が住むまちらしいエピソードを紹介しながら商店街を西へ進む。谷道にある商店街から北側の坂を少し上ると、最初の目的地、1964年に竣工した林雅子さんが設計したアトリエ付住宅「旧魏晋杜工房(ぎしんとうこうぼう)」。著名建築家によるモダニズム建築も築50年を超え、国登録有形文化財の要件を満たすようになりました。



旧魏晋杜工房



遠藤周作旧居 玉川学園二丁目
 (町田市民文学館所蔵写真)

さらに坂を上り丘の上の鉢巻道路を一回り歩き、「旧みつはしちかこ邸」、「遠藤周作邸跡」を訪ねました。講談社創業者の野間清治氏が玉川学園のまちづくりを支援したことから、戦後作家、編集者、学者が学園に移り住み、小さな文士村ができていたようです。文学散歩の野田宇太郎が住んだ町田市ですので、そろそろ文学碑があってもおかしくないのではと感じたところです。

次は玉川学園の戦前の分譲エリアの外側に、1955年にできた124戸の長屋建て都営住宅の建替え区域を跡地利用したまちづくりを訪ねました。半分は都営住宅として建替え、残り半分は地域との協議により高齢者施設、地域集会施設、児童館そして子ども広場となり、拡大する玉川学園の郊外住宅エリアに必要な公共公益施設を付加。郊外住宅としての質を高めたものと思われます。



さくらんぼホール設計 河野 進

さらに玉川学園らしい風景が残る鉢巻道路沿いの土地の記憶を継承し、新たな住宅像を提案している「ジャジャハウス」、大きな敷地の一部を譲り受け、斜面の植栽の連続性と桜を生かしたRC打放し住宅などを紹介させていただきました。



ジャジャハウス
 2023年竣工



S氏邸

小田急線の踏切を渡り「うぐいす坂」の坂上にある赤瀬川原平邸「ニラハウス」を眺め、尾根道をしばらく歩くと、学園のキャンパスに入ります。近年建替えられた華やかな校舎群の間を抜け、玉川学園教育博物館に立ち寄って、地元の方の美術展を観させていただきました。こうした催しは、学園とまちが繋がっていることを感じさせます。

再び尾根道を岡上に向かう途中で学園の牛舎があります。全人教育、労作の原点のような施設もそろそろ解体のようです。これが見納めになるかもということで記念撮影を行いました。



玉川学園の牛舎 集合写真

尾根沿いをさらに歩くと川崎市の飛地「岡上」。急な坂を下ると「和光大学」。メタセコイヤの並木のある坂を上り、2010年竣工した円形校舎E棟の学食で昼食。久しぶりの学食が懐かしい。



和光大学 E棟 設計 内藤 廣

昼食後は、三浦展著『郊外住宅地秘話』にも登場する新興住宅地「岡上西地区」を歩く。宅地開発規制関連法が制定される前の、いわば無法時代に形成された昭和30年代半ばの郊外住宅地の現在を、いくつかの急坂や階段をたどりながら体感してもらいました。

そんな住宅地の中で、杉浦伝宗さんが設計する「六番坂の家」や「岡上の家」は、乱開発された住宅地の自然や環境を再生させた事例として紹介させていただきました。



六番坂の家の屋上「季の庭」、背後に和光大学が



岡上の家

最後に訪れたのは、岡上の集落地、旧家の敷地の一部に建つ集合住宅「Tetto(イタリア語で屋根)」。まさに里山の風景の中にある集合住宅でした。

昭和初期に学園まちづくりとしてつくられた玉川学園と集落地、営農団地、新興住宅地+和光大学からなる岡上を、地形とそこにある建物と学園の風景を素材として対比的に深掘りしてみました。(文と写真：浅黄 美彦)

「雨降る日も心は晴れ晴れフットパス」

雨混じりのどんよりとした空模様でしたが、鬱々とする気分も吹き飛ぶ、楽しく有意義な散策でした。実は、中学と高校の6年間、玉川学園の生徒だったのですが、卒業以来の訪問！ お恥ずかしいことに学校や近隣住宅の歴史を知らなかったのも、高見澤先生と浅黄先生の解説を興味深く聞かせていただきました。多くの作家達が住んでいた理由も理解できましたし、建築家の住宅も一見に値するものばかりでした。

私は男女共長寿日本一の川崎市麻生区（読売ランド自然遊歩道近く）に住んでいますが、「坂道が長寿の秘訣」と思っていたものの、玉川学園と岡上の坂道の急勾配と階段の多さに驚愕！ 我が家の周りの坂なんて全然たいしたことないわ、と帰りは足取りも軽くなりました。

さて、玉川学園高等部の卒業アルバムを探し出し久しぶりに開きましたが、学園全景は今とだいぶ違います。私が通っていた頃は駅近くのコンクリート校舎でしたが、新校舎は、かなり奥にあり、ハリーポッターの魔法学校か！？内部はバチカン宮殿か！？と思う豪華さ。まさか卒業してうん十年後に、その前で集合写真を撮るとは（笑）。



かつての白いコンクリート校舎



バチカン宮殿風校舎内部



礼拝堂内部懐かしの写真



中央校舎前の集合写真

その他に印象に残ったのは、尾根道で全く対照的な景色が繋がっていたことです。尾根道を抜け、和光大学食堂で学生気分も味わえたうえ、「かじのや」直販店で、緑山スタジオによく来る俳優生田斗真君お気に入りの納豆も購入出来て大満足！ 終始充実したフットパスでした。

(文と写真：藤原 由喜子)

他のまちのフットパスをみてみよう
 かつての野猿峠ハイキングコースを
 歩く
 [講師：田邊 博仁]

紅葉の長沼公園,東京薬科大学,永林寺,
 八王子堀之内里山保全地域を巡る

11月30日(木) 天気：晴 参加者：24名

今日は、非会員さま14名を含み、多くのご参加
 ありがとうございました。

かつての「野猿峠ハイキングコース」は、昭和
 30年代は多くのハイカーで賑わっていましたが、
 昭和40年初頭から多摩ニュータウンの造成開発の
 影響で、各所で分断され、昭和45年に廃道となっ
 てしまいました。そんな歴史を長沼橋から、「平
 山城址公園（密集する住宅街）」と「長沼公園（
 奇跡的に残った長沼の森）」の風景を見比べなが
 らお話し、本日のフットパスをスタートしました。

長沼町の里山地区から一步入ると、一気に深い
 森となり、驚きます。その森の木製の橋を登ると
 「絹が丘口」に。ここのモミジの紅葉の美しさは
 見事で、みなさまに喜んでいただけました。



「絹が丘口」の美しい紅葉をバックに

さらに、「野猿の尾根道」を進み、100年の歴
 史をもつ囲炉裏料理店「鎌田鳥山」を見学させて
 いただき、店の歴史を多摩ニュータウン開発の地
 上げに断固応じずに守った「長沼の森の奇跡」の
 お話をさせていただきました。



囲炉裏料理店「鎌田鳥山」と内部の囲炉裏

長沼公園の平山口から、東京ドーム6個分の広
 大とした「東京薬科大学」へ。ここのレストラン
 で昼食をいただきました。昼食後、東京都で最も
 広い薬用植物園（野生種500種を含む2000種類程
 度の植物が生育）の見学へ。谷と丘陵からなり、
 見本園と温室と丘陵の中に作られた自然観察路が
 解放されています。葉がパイナップルに似た香
 りのパイナップルセージ、赤い花のブラシノキ、
 サンシュユの実、サフラン、黄色い花のアナナス、
 ライオンズイヤー、モウソウダケ、温室のカカオ
 の実など30分ほど見学をしました。



東京薬科大学の薬用植物園を散策

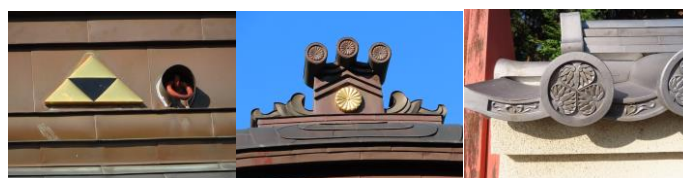
次は東京薬科大学から、地元の古刹「永林寺」
 へ向かいました。とても立派な格式のある大寺院
 で、是非、みなさまへご紹介したく、案内させて
 いただきました。寺になる前は、由木城と呼ばれ、
 大石定久公の居城でした。定久公が滝山城へ移っ
 たあと、叔父の一種長純大和尚に譲られ、「永麟
 寺」として創建(1532年)されました。定久公の
 養子となった北条氏照(八王子城主)により、七堂
 伽藍の大禅寺に整備され、後陽成天皇より勅願寺
 (1587年)の綸旨を受けました。

後北条に代わり関東の新領主・徳川家康が巡拝
 (1591年)。朱印十石、公卿10万石の格式を与え、
 赤門の建立が許されて名を「永林寺」に変え、今
 日に至っています。 近隣に十ヶ寺の末寺を持つ



徳川家康により建立を許された総門（赤門）

格地本寺寺院であります。各門に北条家三つ鱗、
 天皇家菊、五三の桐、徳川家三つ葉葵の紋を有し、
 往時を偲ぶことができます。



各門の北条氏三つ鱗、天皇家菊、徳川家三つ葵の紋



永林寺の三門と中雀門(勅使門)

永林寺の横の道から昔の柚木村の面影を残した寺沢里山地区の道を歩き、京王堀之内駅で解散しました。



堀之内寺沢里山公園と龍生寺阿弥陀堂
(文と写真：田邊)

多摩丘陵の深まる秋を楽しみました

深まる秋の一日、みなさんと多摩丘陵の一角を歩きました。開発が進んだ住宅地もあれば、手つかずの里山も残っていて、モザイク模様のような景観を楽しめました。

フットパスのスタートは浅川に架かる橋から。横たわるような「長沼公園」の姿を眺めた後、森に入っていくと、崖線から滲み出した流れが清々しい。少々キツイ木階段をコツコツと登っていくと息を呑むような景色が待っていました。紅葉の樹林です。少し前に雨が降り気温も下がったせいか、発色が見事です。逆光越しで狙うと絵画のようなショットが撮れました。



浅川から望む多摩丘陵



長沼公園の紅葉

ここからは尾根伝いの気持ちの良い道を歩きます。開発の買収に抵抗した「鎌田鳥山」の野趣あふれる山小屋風のお店を見学し、住宅地の拓けた先を降りていくと東京薬科大の学び舎がありました。学食のランチはどれもボリューム感がありお腹いっぱい。

食後は付属の薬草植物園へ。植物名のプレートに薬効と化学式が記載されているのが新鮮です。こちらは一般の人でも入場できると聞きました。春先の再訪もいいかもしれません。

樹々で囲まれた切通を越えていくと古刹永林寺の山門が見えてきます。朱塗りが許されているのは徳川の許しがあってこそ、と聞きました。振り返ると対面の丘陵地に都立大の校舎がまるでスペインの古城のようにそびえていました。お寺の境内は掃き清められていて、凛とした空気が漂っています。ここまで整えられる余裕があるのは、檀家が多いお寺なのでしょうか。陰陽の石彫が祀られているところを教えてもらい、境内最深部の由木城址跡で戦国の世を偲びました。

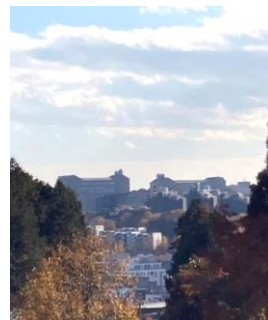


隠された陰の石彫



由木城址跡の碑

お寺を後にゆるゆると峠道を越えると、堀之内の里山保全地域へと入っていきます。曲がりくねった昔からの小径を辿っていくと、柿畑が広がり、コスモスが咲き、なんと牛舎も営まれているではありませんか。夕方のゆるい陽射しが、懐かしい田舎の風景を温かく彩ります。阿弥陀堂をチラ見した後は市街地に歩を進め、堀之内駅で解散となりました。



対面の丘に都立大



牛舎にネコが寄り添う

田邊さんによる随所での詳しいガイドは道中の興味を高めてくれました。ありがとうございました。またしんがりで一隊の歩みを見守っていただいた伊藤さんにも感謝いたします。同行の仲間も大変満足していました。みなさんとご一緒出来て楽しかったです。よい一日が過ごせました。

(文と写真：森 茂樹)

フットパス専門家講座
三ノ輪から竜泉、吉原そして下谷根岸へ
下町を巡ります

〔講師：浅黄 美彦〕

12月9日(土) 天気：晴 参加者：16名

東京メトロ日比谷線三ノ輪駅に集合。昭和通りと明治通りの交差点から歩き始めるとすぐに「目黄不動尊」。家光が定めたという江戸五色不動の一つで、目黒と目白は有名ですが、黄・赤・青は珍しい。私もフットパスの下見で偶然知った目黄不動尊。建物はモダン建築、設計者を調べたら早稲田の丸山欣也、吉阪隆正に繋がる系譜でした。

明治通りから一本入った横道へ。写真家荒木経惟氏の実家「にんべん履物店」跡、看板建築に大きな下駄が飾られた1980年代の写真を頼りに、撮影地を探すというマニアックなまち歩きの妙を紹介してみました。

台東区三ノ輪のにんべん履物店跡から区界の道を渡ると荒川区南千住の「浄閑寺」。安政の大地震の際に犠牲になった新吉原の遊女たちの遺体が投げ込むように葬られたことから、“投込寺”と呼ばれるようになったという。新吉原慰霊塔には「生まれては苦界、死しては浄閑寺」と刻まれた花酔の句が切ない。その向かい側にはしばしばこの寺を訪れた永井荷風の詩碑、設計は文人の墓碑や詩碑を多く手掛けている谷口吉郎。情念とモダンが向き合う浄閑寺でした。



目黄不動尊 (永久寺)



新吉原慰霊塔

投込寺から土手通りを東へ進みかつての遊郭の新吉原へ向かう。吉原大門交差点の近くには、土手の「伊勢屋」と桜鍋の「中江」と100年を超える名店がある。これにうなぎの「尾花」、蕎麦の「砂場」と揃い踏みなところが遊郭があったまちの特徴なのかもしれません。



土手の伊勢屋 桜鍋の中江

見返り柳から衣紋坂を下ると「吉原大門」跡。やはり吉原はここから入りたい。なんだか感漂う吉原大門ですが、ここを抜けるといよいよ「吉原遊郭」跡。メイン通りの仲之町を進む。交番とマンションとなっているところが、かつての料亭「松葉屋」、はとバスで花魁道中を見せていたのがこちらでした。ついでに記せば「吉原公園」は大見世だった「大文字楼」跡、痕跡ばかりでかつての遊郭を偲ぶことはできませんが、多くの遊女屋の土地にソーブランドが建っている姿が、土地の記憶の継承なのかもしれません。とはいえ、「吉原神社」、「吉原弁天社」そして最後の料亭だった「金村」（2009年廃業、中江が引継ぎ、中江別館として営業）を訪ね、遊郭の残滓をみる。



吉原神社

料亭金村 (写真：田邊)

吉原の外周、おはぐろどぶ跡の道を北へ進み「樋口一葉記念館」へ向かう。吉原遊郭とは目と鼻の先龍泉寺町に一葉は暮らした。一葉はここでの生活から遊郭に生まれた少女の成長を描く名作『たけくらべ』を書く。「自身を水面に浮かぶ葉と号した作家は、夫もなく、子もなく、財もなく、名も残せずに24年の短い生涯を閉じた」と一葉記念館で教えられました。



一葉記念館での記念撮影 (写真：田邊)

昼食は三ノ輪橋に戻り、ジョイフル三ノ輪商店街へ。カンヌ映画祭でパルムドールを受賞した『万引き家族』に登場する。「肉の富士屋」などを案内しながら、「砂場総本家」と町中華の店に分かれ、下町の味を楽しみました。

午前中は荷風・一葉の文学散歩、午後からは古い建物散歩となります。

午後は、都電荒川線三ノ輪橋駅前の小広場からスタート。バラが咲く終着駅はいいですね。ここから荒川線に乗っていくつか途中下車の旅ルートが浮かんだのか、参加者の一人が離脱、荒川線の小さな旅を楽しむようです。それもまた良きかな、フットパスの気軽さでもあります。

さて、本隊は三ノ輪橋駅から日光街道へ抜けるビルの中の通路にある三ノ輪商店街を通り、「梅沢写真会館（旧三ノ輪王電ビル）」を見る。ビルの通路に商店街があり、その両側に写真館と花屋という妙な取り合せが面白い昭和初期の建物。



都電荒川線三ノ輪橋駅 梅沢写真会館（旧三ノ輪王電ビル）

日光街道から金杉通りを南へ進むと根岸。ここにも小さな写真館「矢島写真館」があります。大正から昭和初期にかけての憧れの職業は繁盛していたようで、昭和初期に板張りからスクラッチタイル張りのモダンな看板建築に改装しています。2013年に閉業していますが、建物は大切に残され往時をしのばせてくれます。



矢島写真館（写真:田邊）

ここからは、私のまち歩きの原点ともいえる下谷・根岸を歩きます。1977年恩師・陣内秀信先生と「東京のまち研究会」で調査したエリアです。2019年に40年ぶりに同じメンバーで再訪し、その変貌ぶりをまとめた地図をベースに歩きました。

1977年と現在のまちを比較しながら歩く、「都市・建築史的散歩」という一風変わったフットパスを体験していただきました。

震災・戦災の被害を免れた稀有な下町地域の40数年のまちの変化、下町とはどういうものかをなんとなく肌で分かっていただければというコースを設定してみました。はてどうでしたでしょうか。

まずは金杉通り、江戸時代に計画的に造られた奥州裏街道とその沿道の短冊状の敷地に、町家と長屋ができたところです。江戸の建物は何もありませんが、敷地割とわずかに町家とその奥に残る長屋を見ていただきました。



金杉通り(2014)



金杉通り(2023)

次は金杉通りの西側にある根岸。「根岸の里のわび住まい」と知られるこの地は、音無川が流れる田園に風雅な別邸が点在するまちでした。川が暗渠になりまちは密集してきても、柳の並木のある閑静な地に、レストラン「香味屋」、旧料亭の建物、路地の奥にあるリノベーションされた料理屋、著名人ご用達のステーキ店などを巡りながら、根岸は今も文人墨客が住んだ豊かで閑静なまちの雰囲気を残しているように思いました。

また、根岸には「こごめ大福」、「手児奈せんべい」とおみやげも充実しています。お店に立ち寄り、店の人とあれこれ話しながら名物を買う、これもまたフットパスの楽しみの一つでもあり、堪能していただきました。



こごめ大福の店（写真:田邊）

だいたい歩いたのでそろそろ3時の珈琲タイム。選んだ場所は歴史的な建物をリノベーションした3つ。ゲストハウスとカフェの「toco」、元銭湯のカフェ「レボン快哉湯」、古い住宅を改修した「イリヤ プラスカフェ」。

と計画しながら、tocoは休み、レボン快哉湯は満席と計画通りにはいかないものです。下町ゆえ休み処はなんとかなるもので、それぞれ珈琲タイムを楽しまれたようです。

私はレボン快哉湯で銭湯絵を眺めながらテイクアウトの珈琲を持ち、銀杏の葉に埋もれた「小野照崎神社」の境内で美味しい珈琲をいただきました。



レボン快哉湯

いよいよフィニッシュは小野照崎神社からゴールの鶯谷駅へ。途中居酒屋の名店「鍵屋」、明治中期の洋館「旧陸奥宗光邸」を簡単に紹介しました。この二軒、伝えたいことはいろいろありますが、すでに書きすぎておりますので省略しました。

4時に鶯谷駅北口で解散しました。

（文と写真：浅黄 美彦）

農と緑の管理

「鎌倉街道小野路宿ふるさとの森」 を管理するために

皆さんは私たち「みどりのゆび」が管理している緑地の正式名称をご存知ですか。「鎌倉街道小野路宿ふるさとの森」といいます。

「ふるさとの森」とは、町田市のホームページで都市づくり部公園緑地課の中に「ふるさとの森」は、市内の美しい緑地景観、歴史的環境を保護すること及び貴重な動植物が生育する自然環境の保全を目的としており、現在43箇所が指定されています。」と説明されています。

この43カ所のうち、昭和62年（1987年）10月、10番目に指定となったのが私たちの管理する小野路宿緑地です。

管理委託契約書も2013年まで毎年交わされています。そこには、ふるさとの森の管理は「(1)緑地の地形、植生、施設等の観察点検をし、ゴミの不法投棄等については市に通報をする (2)緑地の維持保全のため、市の保全作業に協力し、軽易な除草、清掃を行う (3)緑地の保全と自然保護について周辺住民の理解と協力が得られるように努める」と目標づけられています。当時の担当者の説明としては、本来は市がやるべきふるさとの森の保全を市民団体が協力支援し、保全を維持するための地形、植生、ゴミなどの管理を行うことが主たる目的でした。したがって除草や清掃が第一の目的ではなく、市民が緑を楽しみ慈しみながら維持することと理解しています。また周囲の地元の方たちの理解や協力を得ることも大きな役割です。

2014年からは公益的活動団体として、他の400ほどの市民団体と同様に月1回の清掃活動のみが義務付けられていますが、「ふるさとの森」という制度がある限り私たちは「ふるさとの森」としての管理目標を遂行しています。

緑地から通ずる小野路の切通は、たいした特色もないベッドタウンと思われていた町田市が、自分たちの魅力に気づき、観光によるまちづくりに目覚めた原点でした。この小野路の緑地から、今の自信に満ちた町田市が再建されたと言っても過言ではない大事な緑地です。「ふるさとの森」としての矜持を保ちながら、管理していきたいとします。
(文：事務局 神谷 由紀子)



小野路宿ふるさとの森（写真：蔵）

カナムグラと格闘して達成感

9月3日(日) 天気：晴 参加者：9名

都心から電車を乗り継ぎ鶴川に降りると、いつも 陽の光が明るいとを感じる。別所から小道を通り宿緑地に着くと大きく深く呼吸したくなる。

ここは時折サイクリングのグループが「こんにちは」と気持ち良さそうに走り抜ける。

今日は2ヵ月振りの作業日。前回のオオブタクサは、するりと簡単に根も抜けたが、カナムグラは大小の樹々や草むらに巻き付いて手強い。

チェーン・ソーを使う男性お二人は緑地に伸びた雑草も刈り、Kさんと私達女性6名ははびこっているカナムグラに向かうが、トゲトゲが絡み合って簡単にはいかない。力自慢の私も“エイヤー”と全力で格闘し、夢中で沢山を引き抜いた。

作業小屋裏を流れる小川は枯枝や枯竹で塞がれていて、皆できれいにする。作業は はかどり、皆で除去した雑草の山と、きれいに整地された緑地を何度も眺め、達成感に浸った。

裏山近くではムラサキシキブの大株を見つけた。きれいな紫の実を沢山付けていて、夏のお花を見るのが楽しみです。
(文：松本 美津子)

恵泉女学園大学の田んぼ作業は、 楽しみがいっぱい

10月7日(土) 天気：晴 参加者：5名

小野路に残る恵泉女学園大学の田んぼ作業で、秋の稲刈り実習には、会員4名と孫（7歳）が一緒に参加しました。

孫は今年で3回目ですが、2回目からは鎌を使いました。去年の稲刈りでは刈った稲を交差させたり、くると回して前年の稲で束ね、天日干しにしました。

周囲にはカエルやバッタ、カマキリ、トンボもいて、里山を楽しみながら作業しました。



お孫さんが大活躍の稲刈り（写真：恵泉女学園大学）

初夏の田植えも楽しみです。学生さんの実習ですので、先生方が苗、田おこし、水張り、ロープ張りと全て準備してくださり、私達は植えるだけです。初めての時はゴム草履を紐で巻き付けて田んぼに入りましたが、途中からは裸足になり、先生に教わりながら植えていきました。

田んぼの畦付近の水溜りにはメダカ、ドジョウの稚魚も見かけます。

孫のもうひとつの楽しみは作業の後、里山交流館の縁側に腰掛け、庭を眺めながらのお昼とかき氷を食べる事のようにです。

今年の田植えも楽しみにしています。

(文：名城 千穂)



鎌倉街道小野路宿緑地 (写真:田邊)

まだまだ暑い日差しの中、 たっぷり汗をかいた木陰は壮快！

10月22日(日) 天気：晴 参加人数：6名

待ちきれず？ 事前に現地をご案内いただいた小野路の竹林管理。20年前の山登りウェアを引っ張り出し、初参加させていただきました。

10時開始。管理地は竹林と隣り合わせて木陰となっており、とても気持ちの良いスポットです。夏の間に繁った膝上丈の下草を大きな鎌でザザッと、布田道に近い入口から奥の方にある竹林目指して刈り始めました。最初は要領が分からず、また入口付近は倒木があって刈り難く、草の根を掘り起こしてしまったのですが、掘り起こせば土の中の草の種が散って来春芽を出すことを思い出し、文字通り「草刈り」に変えて続行しました。

さて期待していた栗拾いは、栗が地面に落ちてしまっており収穫出来ませんでした。残念に思っていたところ、Mさんお手製『栗の渋皮煮』のおやつが振る舞われ、皆さん美味しい笑顔。デパ地下で流行中!? モンロワールのチョコとも相性バッチリで、ほっこりした休憩となりました。

私は今年、例年に比べ草木に触れる事が少なかったのですが、草刈りであっても土や草木と遊べて、大変良い時間を過ごせました。また我武者羅に頑張ってもないのに気分爽快。小野路の魅力かもしれません。次回は虫よけと帽子、露よけの足元と膝のカバーを持参して臨みたいと思います。

(文：鈴木 いと子)

作業の後のお楽しみは焚き火で料理

11月5日(日) 天気：曇のち晴 参加者：10名

今日は、主に竹林の下の段に行く通路周辺と、

竹林沿いの布田道の整備をしました。草刈り機と鎌で下草を刈ったり、黄色くなった竹や細いうえ傾いている竹を切ります。私は、鎌の使い方で早くできる方法を教えてもらいました。

こんもりつるが絡んでいるような下草の時は、腕を振りかぶるように動かすとスルスルと抜ける感覚が面白かったです。ただ、人が近くにいないか要注意！10人が集まり、2台の草刈り機が加わったのでスイスイ捗りました。早くもタケノコまつりが楽しみです。

今回は、作業を少し早目に終わらせて緑地に戻り、焚き火の用意です。さつま芋やマッシュマロ、バナナの他に「鮭のワイン蒸し」などを焼きました。皆が持ち寄った食材はバラエティーに富んでいて、美味しくいただきました。また「ゆっくり話しができて良かった」の声がありました。

Gさんが用意してくれた焚き火は、深く掘った穴の底に火があり、落ちそうで、ちょっと怖い！

Gさんの「後始末のことも考えたので……」の言葉に、一同「成る程！」でした。皆さまのご協力で、やっと「作業+お楽しみ」が実現でき、嬉しく思いました。

(文：新納 清子)

”タケノコ良年”に期待しつつ 枯竹整理にチェーンソーをふるう

12月3日(日) 天気：晴 参加者：10名

緑地に里山作業ボランティアの募集看板を掲示して1年半、今回初めてお試し参加の若いIさんを、皆で迎えることが出来て嬉しい。

里山作業には体力が求められるが、他会同様に当会でも高齢化が進んでいる。今後次の世代への業務継承が出来るよう、引続き比較的若い方々のお試し参加を働き掛けましょう。

来春はタケノコ良年と予想され、竹林からの恵みにも期待を寄せながら、竹林頂部や下段で10人揃って草刈りと枯竹整理に励んだ。

竹林整備の基本は、竹を選別し竹間を充分に取るよう本数調整をすること、また下草や灌木を刈り払い、竹の地下茎を充分張り巡らせること。放置同然の以前に較べれば相当改善されて来た。

草刈りは手鎌だと時間が掛かるが、刈払機を活用すれば、短時間で効率良く作業を進められる。今回は2台稼働したので捗った。

枯竹整理にはチェーンソーが有効であり、今回は活用出来た。ただし少し間違えば危険でもあるため、取り扱いには自他共に注意したい。

また、竹林出入り箇所付近に危険な枯木が数本あり、町田市に処理をお願いした。倒れて他木に寄りかかった1本は直ぐに玉切り処理してもらえたが、他の枯木についても、思わぬ事故が起きないように、早く除伐願えればありがたい。

(文：合田 英興)



NPO法人「みどりのゆび」2024年3月～7月 フットパス・スケジュール



持ち物：弁当 水筒 雨具 参加費：1000円（イベントによって変更あり） 申込：みどりのゆびHPまたは下記メール
★変更などがある場合も。必ず事務局に確かめてからお出かけください。 ☎ 042-734-5678 📠 080-5405-3904（神谷）

うれしいことに、初参加の方が増えてきました。今期も、一緒にフットパスを楽しみましょう。

●必ずお申し込みください。天候によって中止の場合もありますし、昼食の予約など保証できなくなります。

●申し込んでも事務局から何も連絡がない場合には、再度ご連絡ください。

ホームページ： <http://www.midorinoyubi-footpath.jp/>

メール： info-m@midorinoyubi-footpath.jp 電話：042-734-5678 FAX：042-734-8954 携帯：080-5405-3904（神谷）

3月31日(日)

【集合】

小田急線
「秦野」駅
改札口
10:00AM

【昼食】

弁当持参

申込締切
3月24日まで

『他のまちのフットパスをみてみよう：桜の渋沢丘陵と丹沢の雄大な景色を楽しむ』

【講師：田邊 博仁 秦野の桜と湧水群、自然の神秘的な「震生湖」、丹沢の雄大な眺望】

【内容】 渋沢丘陵は秦野市の南側に東西に広がる丘陵地帯。小田急線の秦野駅と渋沢駅とを結ぶ線に沿って連なっています。秦野盆地湧水群は「全国名水100選」に選定され、秦野駅近くで伝説の残る「弘法の清水」は、特に有名です。また、秦野盆地湧水群の中でも最大級の湧水量を誇る「今泉湧水池」は桜も有名です。関東三大稲荷の一つの「白笹稲荷神社」も巡ります。桜の季節です。神奈川県内最長の「はだの桜みち」など、美しい桜を見ながらのフットパスです。白笹稲荷神社から震生湖までは小径を登るにつれて、田園風景が広がり、秦野市街、大山や三ノ塔・塔ノ岳など表丹沢の山々も一望できます。秦野市内でも屈指の眺望スポットです、晴れた日には富士山を眺めることもできます。

約百年前の関東大震災（1923年9月1日）で誕生した湖、「震生湖」を探索します。「天災は忘れた頃来る」の諺と警句で有名な寺田虎彦の句碑が建てられています。再び渋沢丘陵を歩き、市街地を経て、渋沢駅にて解散。

【コース】 「秦野」駅→「弘法の清水」→「今泉水庭園」→「震生湖」→「渋沢丘陵」→「渋沢」駅



県内最長の「はだの桜みち」



丹沢表尾根の雄大な眺望



関東大震災で誕生した震生湖

4月20日(土)

【集合】

神奈川中央バス
「別所」
バス停
10:00AM

【昼食】

「小野路宿
里山交流館」
うどん定食
弁当持参可

申込締切
4月13日まで

『小野路のフットパスコースをみてみよう：新会員が増え、改めてフットパスの原点である小野路コースを歩きます。』

【講師：田邊 博仁 江戸時代の布田道、多摩丘陵の里山、小野路宿場街、小野路城跡】

【内容】 東京に残る昔ながらの里山に広がる「癒しの里」と多くのメディアに紹介された町田のフットパス発祥の地です。観光名所とか自動販売機など、ここには何もありません。あるのはMapを片手にのんびり歩く里山の自然だけです。最近、新会員の方が増え、改めてフットパスの原点である小野路コースをご案内いたします。

別所から、江戸時代からの気持ちのよい布田道に入ります。みどりのゆびの管理緑地からは多摩丘陵の緑と野菜畑が広がる。里山、恵泉女学院大学実習農場、妙桜寺、多摩の横山の道を歩き、一本杉公園にて小休止。旧鎌倉街道を経て、重厚な雰囲気のある関屋の切通から小野路宿里山交流館にて昼食です。

午後は、小野神社、六地藏を見て、小町井戸、小野路城址、ならび谷戸を歩き、小野路宿里山交流館へ戻り、解散します。

【コース】 別所バス停→布田道→みどりのゆび管理地→多摩丘陵の畑→恵泉女学院大学実習農場→「妙桜寺」→「一本杉公園」→旧鎌倉街道→関屋の切通→「小野路宿里山交流館」（昼食）→「小野神社」→「六地藏」→「小町井戸」→「小野路城址」→ならび谷戸→牛小屋→小野路宿里山交流館（解散）



江戸時代からの布田道



多摩丘陵の里山を歩く



趣のある関屋の切通

5月16日(木)

【集合】

JR東海道線
「真鶴」駅
改札前
10:00AM

【昼食】

自由昼食
漁港にある
魚座（さかな
ざ）あたり
で昼食

申込締切
5月9日まで

『フットパス専門家講座：美の基準のある真鶴 背戸道風景を巡る』

【講師：浅黄 美彦「美の基準」と呼ばれるまちづくり条例のある真鶴「背戸道」と呼ばれる路地を歩きながら真鶴の魅力的な場所を巡ります】

【内容】高台にある真鶴駅と港を繋ぐ「おおみち商店街」を下り、「コミュニティ真鶴」で美の基準による建物のありようを堪能し、背戸道を抜け旧道沿いにある懐かしいまち並みのある「西仲商店街」で真鶴の生活風景を垣間見る。さらに坂を下り「海の仕事の風景」を眺め、市場の2階にある「魚座」で昼食（予定）。

午後からは、再び背戸道をたどりながら、道祖神、岩海岸の漁村や若き移住者が古い建物をリノベーションした「真鶴出版」、「道草書房」、「本と美容室」、「パン屋秋日和」、「珈琲ウォーターマーク」などを迷いながら訪ねます。観光とは一味違う 知らない真鶴を楽しんでいただければと思います。

【コース】 真鶴駅→コミュニティ真鶴→西仲商店街→真鶴港→市場の魚座で昼食→岩海岸の漁村を巡り→泊まれる出版社真鶴出版→道草書房→パン屋秋日和→真鶴駅で解散



コミュニティ真鶴



泊まれる出版社 真鶴出版

6月16日(日)

午後のみ
の開催

【集合】

JR横浜線
「相原」駅
西口バス
ターミナル
前広場
12:30 PM

【昼食】

昼食は済ませ
てから、
集合

『フットパス専門家講座：関東甲信エリア「東(AZUMA)の国フットパス」結成を目指して！ 奥相模野のタツゴ（龍籠）山麓の古代集落（境川源流域）を歩く』

【講師：古街道研究家 宮田 太郎】

【内容】その昔、武蔵国と相模国を分ける指標となった境川。その源流域において確認された古代の大集落「武蔵岡遺跡」一帯は、まさに相模野の奥座敷にあたり、古墳時代から平安時代まで大規模な集落が営まれていました。辰（龍）年の今年は、広田地区から眺める「タツゴ山（雌雄の龍伝説の夫婦山）」の風景を感じながら、古代人の心の拠り所の一つであった国境の里を歩いてみましょう。今回は「東(AZUMA)の国フットパス」を目指す活動の一環として実施します。

【コース】JR「相原」駅改札を出て西口バスターミナル前広場に午後12時半集合（昼食はお済ませの上ご集合下さい）→路線バスで「水ノ口バス停」下車→境川上流曲折ポイント→「下馬梅」→「武蔵岡遺跡」→「明観寺」→「賽の神塚」→神秘のお社「春日神社」→「川尻八幡宮」→「春林横穴墓群」→「城山支所入口」バス停＝「橋本」駅 解散は15時45分頃

* コースは天候・気温に合わせて一部変更する場合があります。



広田地区から龍籠（タツゴ）山を望む



境川の屈曲地点（武蔵岡遺跡付近）

6月23日(日)

【集合】

京浜急行線
「浦賀」駅
改札口前
10:00AM

【昼食】

弁当持参

熱中症対策を
お願いします

申込締切
6月16日まで

『フットパス専門家講座：三浦半島 観音崎の植物観察』

【講師：日本植物友の会副会長 山田 隆彦】

【内容】初夏の観音崎を訪ねます。咲き始めたスカシユリ、ハマナデシコ、ハマゴウ、ソナレムグラ、ポタンボウフウ、タイトゴメ等の海浜植物やコモチシダやアスカイノデなどのシダ類を観察したいと思います。

【コース】「浦賀駅（バス）」→「観音崎公園」バス停→「観音崎灯台」→公園内遊歩道→観音崎公園バス停（バス）→浦賀駅



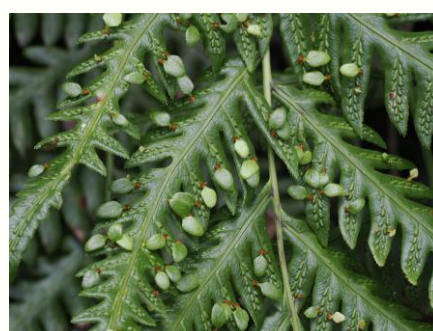
観音崎灯台（写真：県立観音崎公園）



スカシユリ



ハマナデシコ



コモチシダ

7月6日(土)

【集合】

JR青梅線
「奥多摩」駅
10:00AM

【昼食】

現地の食堂
「わさび食堂」
にお弁当注文
(1000円~1500
円)

申込締切
6月29日まで

『他のまちのフットパスをみてみよう：ダム建設と石灰石運搬でできた奥多摩駅の周辺を歩く』

【講師：小林 道正 渓流沿いで「わさび弁当」を食べ、森林セラピートレイルを散策します】

【内容】JR「奥多摩」駅は、もとは氷川駅という名前で、石灰石の採掘・運搬と小河内ダム建設のためにできました。駅の周りはダム建設の人たちで賑わっていたそうです。しかしダムが完成(昭和32年)した後は、観光の鉄道と駅になる予定でしたが実現することはありませんでした。石灰石の運搬もトラック輸送が主流となり、現在では鉄道と駅を利用するのは登山客ぐらいになってしまいました。今回のフットパスでは、ダム建設のために使われていた鉄道の廃線跡や奥多摩町の賑わっていた頃の面影を辿ります。

お昼ご飯は、賑わっていた頃に利用されていたと思えるプライベートビーチのような川原で、奥多摩名産の山葵をつかったお弁当を食べます。そして森林セラピーの「香りのトレイル」を散策して元気になっていただきましょう。

【コース】JR奥多摩駅→「奥多摩ビジターセンター」→古道「除ヶ野から氷川」→渓谷の川原＜昼食＞→森林セラピー基地→氷川神社→JR奥多摩駅



山小屋風のJR奥多摩駅舎



ジブリの雰囲気のある廃線跡



多摩川のプライベート川原

「鎌倉街道小野路宿ふるさとの森」管理スケジュール 2024年4～9月

「鎌倉街道小野路宿ふるさとの森」の管理は、除草や清掃も重要な仕事ですが、みんなで緑を楽しみながら行っています。例年のタケノコまつりに加え、今年は、自然観察会、小野路の果樹園でのくだもの狩り、近くのお洒落なカフェでの音楽鑑賞なども出来たら良いと考えています。仲間、つながり、居心地の良さなどを体感できる、そんな活動を目指しています。

皆さま、奮ってご参加ください。

★雨天では、必ず事務局に確かめてからお出かけください。

集合：現地10時、作業：2時間、持ち物：飲料水、軍手、長靴（必要なら）

2024年	 「緑と農の管理」	管理作業の場所 案内図
4/14 (日)	タケノコの生育調査 収穫＊会員のみのみ	
4/21 (日)	タケノコまつり	
4/28 (日)	竹林整備	
5/5 (日)	緑地・竹林整備 穂先タケノコ収穫	
6/2 (日)	緑地整備	
7/21 (日)	緑地整備 午前・午後	
9/8 (日)	緑地整備 午前・午後 (午前・午後：弁当持参または外食)	

* 作業日が雨の場合は、事務局に実施の確認をお願いします。その場合は翌週に延期します。

* 集合は、現地に午前10時です。作業は2時間を予定しています。

* 持ち物は、飲料水、軍手、長靴（必要なら）。

* 午前・午後の作業日の昼食は、弁当持参か、近くのレストランを予定しています。

「みどりのゆび」出版物のご案内



『フットパスによるまちづくり』から足掛け10年、“未来づくり”と展望を広げた第二弾が刊行されました。日本で＜フットパス＞という言葉が使われるようになって20年ほどが経ち、今では全国に122の団体があり、575本のコースが設定され、総距離3,519 kmに及んで、多くの自治体等から注目されています。また近場の緑を再確認する若い層が増え、移住への起動力ともなっています。フットパスは確実に浸透していると思われます。

コロナの時代を経て社会や政治も大きく変わりました。災害、疫病、戦争が次々に出現し、予測不能な社会になってしまったのです。予測不能な社会では、“優しさ”が大切で、それがなければお互いに共存できなくなると思います。フットパスはそんな優しい社会づくりに貢献できるのではないのでしょうか。

本書では、まず、フットパスとは何かを示し、フットパスの現状と歴史などを俯瞰します。次いで「広域連携」「経営」「移住者」「共生」という各視点から、これまでの取り組みと目指すべきビジョンを紹介。最後に、ポスト・コロナ時代のフットパスは地域にどう役立つのか、そして地方移住を検討している人たちの生活支援ツールとなる可能性を紹介します。

頒価【2,970円（税込み）＋送料】
ご購入を希望される方は、下記みどりのゆび事務局宛にご連絡ください。

Tel 042-734-5678

Fax 042-734-8954

Email info-m@midorinoyubi-footpath.jp

編者：神谷 由紀子 泉 留維

監修：日本フットパス協会

NPO法人みどりのゆび ホームページのご紹介

ウェブ検索にて「NPO法人みどりのゆび」と挿入すると、右記のホームページが開きます。

上部の各項目の▼をクリックしますと、さらに、各種のご案内が開きます。

●「イベント」では各種イベントスケジュール、カレンダーおよびイベント申込みが開きます。

●「活動の記録」では会報、活動レポートが開きます。

●「みどりのゆび概要」では、会のご紹介、沿革、入会申し込みなどが開きます。

●「お知らせ」では、新着情報、掲示板が開きます。掲示板では、みなさまの投稿が可能になりましたので、ご活用ください。

フットパスガイドマップ4冊（改訂版発行）

町田市地域には、フットパスにふさわしい昔ながらの里山風景、雑木林、田畑、古街道、歴史の面影などが随所に残されています。

魅力あるフットパスコースを町田市と協働で開発してフットパスガイドマップとし、『多摩丘陵FootPath1』¥500+税、『多摩丘陵FootPath2』¥500+税、『まちだフットパスガイドマップ』¥800+税、『まちだフットパスガイドマップ2』¥700+税の4冊を刊行しています。

市内の書店・久美堂（原町田本店、四丁目店、本町田店）と啓文堂（鶴川店）、町田ツーリストギャラリー、小野路宿里山交流館でのご購入、または、下記のみどりのゆび事務局へお申し込みください。



～ 編集後記 ～

「みどりのゆび」の活動ってどんなこと？ フットパスのそれぞれをアピールするために選択する写真には、歩くことの追体験に添ってワクワクするような臨場感のある絵画が欲しい。スマホなどレンズを通して観察する楽しみを是非！ ここに来て、新しく参加される方が増えています。より魅力的な会報づくりのためにもご協力を。（横山）

会報は、春と秋の2回/年、会員さまへ配布しています。過去の会報は、ホームページの「活動の記録」の「会報」からご覧になれます。また、「活動レポート」には、直近の「緑地管理報告」や「フットパスの報告」が紹介されています。楽しい活動の様子やGoogleフォトアルバムを紹介しています。本会報と併せて、ご覧あれ！（田邊）

NPO法人「みどりのゆび」

- ・事務局 : Tel 042-734-5678 Fax 042-734-8954 Email info-m@midorinoyubi-footpath.jp
- ・ホームページ : <http://www.midorinoyubi-footpath.jp/>
- ・Facebook : <https://www.facebook.com/midorinoyubi.footpath>